

## 霞地区新入生オリエンテーション・キャンプ

弁当を食べながら新入生の自己紹介、各講座の院生による研究室紹介、そしてゲーム（教官にも負担にならないもので好評であった）。金曜日に実施したため、新入生・二年生の総合科学部での聴講手続きに支障をきたし、反省点として残った。

地球惑星システム学科

沖 村 雄 二

三億年前の「サンゴ礁」ハイキング  
……理学部前をバスは九時過ぎに出

発。途中、学科の研究室のことや窓外の地質の話を聞きながら中国高速道で東城インターに着いたのがお昼前。さつそく遊ユーサロン東城で暖かい昼食をとり、前庭の芝生に円形に座り込んで自己紹介、大きな声と笑いのうちにお互いを知り合った。古代終りの頃の「サンゴ礁」のなかに刻まれた名勝帝釽川の谷（五キロ余り）を、カタクリの花をめでながらハイキング。多くの親友ができ、近・未来を語り、大学生活に自信が！。

されることながらフェローはすごかつた。公民館前でつぶれて泣いていたタオさん、比治山ですぐ服をぬぐ陽祐さん、女なのにめちゃ酒に強い我がフェローの白雪姫（リキさん）、打ち上げで数人の唾液入りビールなどゲテモノを飲み交わした滝本さん、その他のフェローの皆さん、私の負けだ。ゴメンナサイ。感服した。

でもフェローの方々、「安心を。皆、フェローが本当によく準備してくれたことを分かっているはずだ。本来の姿は飲みの時にしか見ることができない」ということも。（冗談）

### 協力の大切さ

医療現場に生かしたい

保健学科 理学療法学専攻一年

内 野 聰 美

チユーターとしてオリエンテーションキャンプに参加した。これまで、十一年以上キャンプをしたことのなかつた私は、何故かそわそわしながら、一週間前には運動シューズとウインドブレーカーを買い求めていた。キャンプには、この春私の研究室の大学院生となつたソウル出身の留学生、李さんを誘つた。フェローは医進の二年生、わが班は医学部三学科の各学生、それに歯学部の先生と学生を含む十八名から構成されていた。班員の名前を覚えるためのゲームで、開始早々罰ゲームをやらされたが今は楽しい思い出となつ

た。班員だけで行うミニファイヤードは、自分の学生時代の懐かしい出来事を話した。新入生は、フェローの献身的な頑張りのおかげで、良き思い出と友人を得たに違いない。李さんも、班の人たちから日本語会話の上手さを盛んに讃められ、とても喜んでいた。

### 飲んで飲んで：

オリキャンの印象

医学進学課程一年

和 田 幸 之

慣れない一人暮らしの寂しさや大学生活に対する不安、期待など、複雑な心境で臨んだ霞オリキャンは私を一步大人へと導いてくれたような気がする。今回のオリキャンを通じてかけがえのない友達や、先輩と知り合うこともでき、大学時代にしかできない大切なことは何かと考えさせられた。



## 霞地区新入生オリエンテーション・キャンプ



班内でも、一人一人の役割は微小ながらもみんなでやれば食事ができたり、テントが張れたりと、協力の大切さを痛切に感じた。今後、医療の現場に携わる者として、オリキャンで学んだ協力の大切さを忘れずに現場に生かしていくべきだと思う。

月並みではあるが、霞オリキャンに

参加して心から良かつたと思う。ここまで色々な面で新入生を盛り上げて下さったフェローの皆さん、あまり目立つこともなく悪役をひきうけて下さったスタッフの皆さんに感謝したい。来年も今年と同じように大成功させて欲しいと思う。

## 歯学部

## 新入生参加率九〇%

歯学部学生相談委員長 浜田泰三

第一回の霞オリキャンは、これまでの全学オリキャンとほぼ同一日に同一場所で開催した。参加者は新入生三百十五名、在校生百六名、教職員七十二名で、歯学部新入生の参加は六十名中五十四名の九十%の参加率であった。例年と異なる点は何よりもござんまりとまとまりがあったことと、教職員の参加が多かったこと。例年と似た点はやっぱりオリキャンは雨にたたられ、寒かったことである。にわか雨にもかかわらずプログラムに支障はなく、二日目は快晴であった。フェローはじめ準備をしてくれた方々の労苦のおかげで無事終了できたことはいうまでもない。

霞キャンパスでは医、歯、薬、保健学科で参加学生の男女比がほぼバランスがとれており、キャンプなどの行事にはすばらしいことであった。

一日目は各学科間の交流をはかるべく、グループもバランスよく配分されていた。二日目は学科別プログラムとして教官との交流とした。新入生以外の参加者は昨年までの全学のオリキヤ

ンの経験者であり、それは一つの型をなしていたため、今回もその型を基本的には守ったかつこうとなつた。他に何をするといつても、永年積み重ねてきたものにはそれなりの理由もあり、新入生オリキャンプログラムとしてはオーソドックスなものといえるかもしない。

ただ今回のように教官側も多数参加してみると、新入生同士、新入生と在校生、新入生と教官の三者のどこに主体をおくか意見のあるところである。前二者は学生同士ですればよいのではなかろうか。

オリキャンの論点もある。オリキャンの目的は”いきつくと思うが、教官側はもつと教育的な、アカデミックな交流を期待している。学生にまかせると楽しき一辺倒になる。このことが従来からの贅否の原点ではあるまいか。その点では今回はこれまでとあまり変わっていないといえる。

我々教官には一日目の学生のテント設営時間に、教官交流プログラムが開